

Tokyo Docs 2016

TokyoDocs

会 期：2016年11月7日(月)～10日(木)  
 会 場：JA共済ビル カンファレンスホール  
 主 催：特定非営利活動法人東京TVフォーラム  
 共 催：(一社)全日本テレビ番組製作社連盟  
 後 援：総務省／経済産業省／東京都／日本放送協会(NHK)／  
 (一社)日本民間放送連盟(民放連)／(公財)放送文化基金／  
 (特非)放送批評懇談会／(一社)放送人の会／  
 (一社)全国地域映像団体協議会(全映協)／  
 (公社)映像文化製作者連盟(映文連)  
 対 象：製作者、放送局、一般、学生  
 公式サイト：http://tokyodocs.jp/

4日間延べセッション参加者数：1,980人  
 出展参加国と地域数：15の国と地域  
 バイヤー数：43人(国内バイヤー：11人 海外バイヤー：32人)  
 商談件数：190件

■開催内容

Tokyo Docsは、日本発のドキュメンタリー番組を、国際共同製作により海外展開するため、ピッチング・セッション(企画提案会議)を柱として、年1回開催している国際ドキュメンタリー提案フォーラムです。今年で6回目の開催となりました。ここから生まれるコンテンツは、日本および世界が直面するさまざまな課題、人々の多様な生き方、日本やアジアの社会や文化の多彩な魅力など、幅広いドキュメンタリー企画です。過去5回で115本の企画が提案され、この中から原発事故、和食や刀剣などの文化、日本の若者の生き方など、日本の姿を取り上げた数十企画が国際展開を実現させました。

Tokyo Docs 2016は、11月7日(月)から10日(木)まで開催しました。初日はアジアデーとして、アジアと日本の制作会社による共同製作プロジェクト「Colors of Asia 2016」で完成・放送した作品の上映、製作者によるトークセッションを行いました。加えて、2017年での放送を目指して国際共同製作を進める、「Colors of Asia 2017」のピッチング・セッションを行いました。今回で3回目となる企画応募では「未来をつかめ!子供たち」をテーマに、応募された25本の中から8企画のピッチングを行い、4企画を選考しました。

2日目、3日目は、企画採択権限のあるディビジョン・メーカーや制作会社のプロデューサーら、欧米・アジアの招聘ゲストの前で、国内外のドキュメンタリー製作者が自らの企画を公開で提案する、ピッチング・セッションを行いました。このセッションには国内外から102本の企画が集まり、その中から国内企画13本、海外企画6本をピッチングしました。ピッチング・セッションで提案した企画の中でディビジョン・メーカーが興味を持った企画、評価された企画について、国際共同製作実現に向けて具体的な話し合いが続けられることとなります。このためTokyo Docsは、ピッチング・セッションのあとに、提案者とディビジョン・メーカーによる個別ミーティングも行いました。ミーティング総数は2日間で183件を超え、各企画が国際共同製作に向けて一歩を踏み出しました。最終日には、ピッチングをした企画を中心に、フォローアップ・セッションを開催し、海外ドキュメンタリストを招いてピッチング後にすべきことなどのアドバイスを講義して頂きました。その後、各企画に分かれて、海外ドキュメンタリスト、エキスパートや国際共同製作を成功させた国内製作者などからアドバイスをもらえる場を作りました。

■2016年度の新規取り組みとその成果・特色など

①企画が充実したことが評価

- ・今回の目標として企画の充実をかけた、具体的な取り組みとしてTokyo Docs Academyの一環としてMaster Classという特別プログラムを立ち上げました。
- ・公募の中から国際共同製作として可能性のある企画を提出した3名の製作者を選び、ドイツ人プロデューサーの指導により企画の練り上げを行いました。
- ・結果的にはMaster Classの3企画が高い評価を受けました。それ以外の企画も全般的には高評価でしたが、日本からの企画採択本数を絞り提案したことが



カラースオブアジア



ピッチング



個別ミーティング



海外ゲスト



集合写真

評価に繋がったと思われます。

#### ②海外ディビジョン・メーカーから高い評価

海外ディビジョン・メーカーに対するアンケート調査を実施しました。今回は初めて運営と企画に関する設問を分離したところ、運営は極めて高い評価となりました。コンパクトなイベントで参加者同士がコミュニケーションしやすく、またアジアとのつながりが深いことなどが高く評価されました。企画のテーマについては評価が高い一方、企画のクオリティに関しては4人に1人は普通と評価しています。視点を明確にすることが必要などという指摘もあり、今後の課題となっています。

#### ③企画開発費を増額

国際共同製作を成立させるための支援として、企画開発費を総額500万円に増額（前回は総額200万円）しました。

#### ④アジアのドキュメンタリー製作者の関心

- ・アジアから例年になく多い30件の応募がありました。
- ・当初予定より1本多い6本の作品をピッチ企画として採択しました。
- ・企画提案者以外からも参加申込があり、Tokyo Docsへのアジア地域での関心の高まりを実感しました。

#### ⑤「Colors of Asia」への関心

- ・アジアと日本の製作会社による共同製作プロジェクト「Colors of Asia」に対する関心が高まりました。
- ・今回で3回目となる企画応募では「未来をつかめ!子供たち」をテーマに25本の企画が集まりました。
- ・その中から8企画がピッチングを行い国際共同製作を進める4企画を選考しました。

#### ■他イベントとの連携事例とその成果

ピッチング・セッションを通して、ディビジョン・メーカーには、各企画の評価をしてもらっています。その採点を基に、ピッチング・セッション最終日には、優秀な企画を表彰する表彰式を行いました。全作品の中から一番優秀な企画に送られる「最優秀企画賞」、その次に評価の高かった「優秀企画賞」、アジアから提案された企画の中で優れている「ベストアジア企画賞」などを設けています。これらTokyo Docsオリジナルの賞の他に、Tokyo Docsと海外のパートナーイベントの連携の一環として、評価が高かった企画の中から、企画の提案者をパートナーイベントに派遣してピッチングできる賞も設けました。今回の対象は、オーストラリアで行われる「AIDC (The Australian International Documentary Conference) 賞」、インドで行われる「Docedge Kolkata 賞」、フランスで行われる「SSD (Sunny Side of the Doc) 賞」でした。